

### 第3回 神戸便教会 活動報告

2015年5月23日(土)、第3回神戸便教会を西代中学校にて開催いたしました。今回は14名の方に参加していただき、2階の男女トイレを借りての活動でした。

自己紹介のあと、早速活動に入りました。初めて参加される方が2名いらっしゃったので、リーダーの先生には、丁寧な説明をしていただきました。「両手を使う」「人と比べない」「しゃべらずに向き合う」ということをポイントに始めました。初めての先生方は男子の小便器をお願いしました。



その小便器ですが、なかなか手強い状態でした。何年も放置していたと思われるような状態でした。

いつも思いますが、みなさんが便器や対象に向き合っておられる姿には、オーラが感じられます。

1時間半ほどでしたが、大変充実した時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。



以下、反省会での意見です。

◎ 便器が食器に見えてきた。前日少し、遅くなって、来る前はあまり気持ちが乗らなかったが、終わった後は、やはり気分がさわやかになった。



◎ 4月から二か月ほど経ったが、子どもたちは怒られることが多く、自信がなくなっているように思う。自分にできることとして、一人でトイレ掃除に向き合う勇気もなく、落ち込むこともあった。今日の掃除で気持ちが前向きになった。

◎ 一人で掃除していると、何かをするとき言い訳が出ることがある。忙しいことを言い訳している自分がある。トイレの状態が心の状態だと感じた。

◎ 初めての参加だった。雑巾の絞り方から教えていただいた。小便器を最初見たときは、できるか不安だった。でも、やっているうちに、もっときれいにしたい気持ちになった。今はとてもすがすがしい気持ちだ。

◎ 初めての参加だった。あっという間に時間が過ぎた。もっときれいにしたいという気持ちになった。比べてはいけないと思いながら、隣の便器を見てしまう自分がいた。

◎ 今回は、小便器を担当した。掃除をしながら、どこかに先を見通している自分があるなと思った。こうなるだろうという予測を勝手に立てている自分がある。予測を立てるばかりに、今に集中できずに、雑な取り組みになっている気がした。だからこそ、今日はサンドメッシュ越しに指先の感覚を大事に取り組んだ。子どもに向き合う時も、指先のように集中しているかどうか考えさせられた。

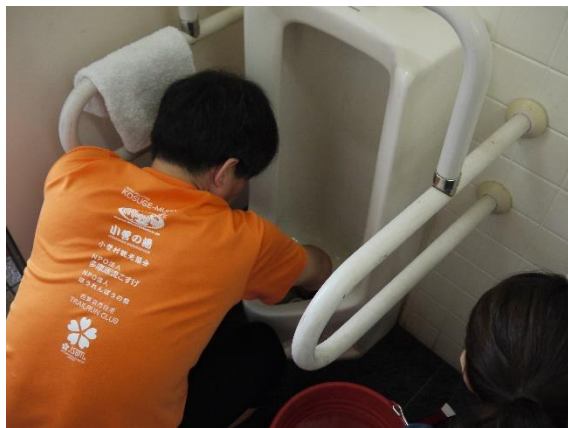
◎ 今は大学で勉強している。大学にいと批評することが多くなる。批評や批判というスタンスではなく、ただただトイレに向き合いたい。頭を下げ一心に物事に取り組むことが大切だと再確認した。

◎ 尿濃しを担当した。手強い状態だった。道具が足りないので、取りに行ったが、迷ってしまった。手元にはサンドメッシュしかない状態だった。しばらくサンドメッシュだけで掃除をして、ボロボロになった。他に汚れ

を落とすものが何かないかと探すと、円形の小さな金属を見つけ、それを使って削り落とした。何も道具がない中で、何かをやらなければならない場合がある。そのときに知恵が出るのではないかと思った。また、あちらこちらの汚れに目移りしてしまった。鍵山先生は目移りするのは心が定まっていない、心が乱れている状態だと言われている。集中することが改めて大切だと感じた。

◎ 考え事をしながら、便器に向き合う時間が長かった。鍵山先生の本に、心は見ているものに似てくるといのがあった。それなら、誰かに掃除をしてもらってきれいになった便器を見ると心はどうなるのかと思った。掃除を終えて、水を流したときにトイレが喜んでいるように思った。誰かにしてもらっただけでは、そう感じなかっただろう。自分が体験することが大切だと思った。

◎ トイレに向き合ったが、なぜか棧が気になった。その棧はいつから掃除していないのかと気になった。根本の原因に気づかなければならないと感じた。



◎ 私の勤める学校で、長年掃除していない部屋がある。一番人目に触れる場所

なので、空気感を変えたいと思い、掃除してワックスをかけた。掃除をしていると、自分に一番近い人から手伝ってくれるようになった。その後、職員室の掃除を提案したら、やろうということになった。明るい職員室を作りたかった。雰囲気を変えると、机

の上にもものが高く積まれているようなことがなくなった。その場の空気をきれいにすることが大切だと感じた。

◎ 便教会に参加される先生は、何か悩みを持ち、その解決を図りたい、何かコツを知りたいと思って来られる人もいます。しかし、尿濃しを開けると、そこが問題の中心だということに気付く。掃除を生徒にやらせたいと思うこともあるが、人を動かすことではなく、まず自分ができるかがポイントだと思う。それは掃除の力を信じられるかどうか、また、あいさつの力を信じられるかということが、大切なのではないかと。

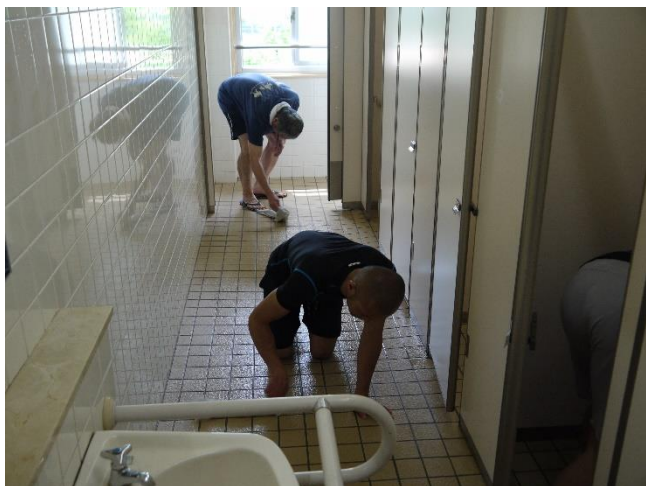
今日は本を持ってきた。広島の久保校長先生の実践記録だ。そ



の中に「徹底的に

取り組む」という言葉があるが、我々が使う「徹底的」は本当に「徹底的」だろうか。具体的に、目に見えるように提示し、実践することが「徹底」である。そして、その実践は教師からではないだろうか。まず自分ができるかが大切。つまり、「掃除の力」を信じられるかがポイントだと思う。便教会はそのきっかけ作りだと思う。自分が続けることで、生徒に対して発する言葉や雰囲気が変わるのではないかと。





最後に……。休日の朝からトイレ掃除に来られる先生は、やはり人間的に素晴らしい方ばかりだと思います。それぞれに悩みや苦勞もあり、その解決の糸口を見つけに来られることもあります。しかし、同じ時間、同じ場所、同じ空気を共有できることが自分の励みになります

(文責 石塚裕司)



。